

デジタル・アーカイブの紹介

「阿仁鉱山関係絵図」について

附属図書館医学情報グループ 齋藤 香織

「阿仁鉱山関係絵図」は5枚の絵図からなる資料で、1965年、弘前大学の旧文理学部改組の際に、東京の古書店より購入したとされています。阿仁鉱山とは一つの鉱山を指すのではなく、六ヶ山と呼ばれた複数の鉱山および精錬所の総称です。秋田県には数多くの鉱山がありましたが、阿仁鉱山はその中でも銅の産出高日本一になったこともある全国有数の鉱山で、江戸時代に秋田藩の直轄となりました。現在は資源の枯渇により休山となり、立ち入り不可となっています。この5枚の絵図は、六ヶ山のうちの一の又と二の又、そして阿仁銀山町を描いており、当時の姿を示す貴重な資料です。

絵図は、色が褪せたり、折り目部分から傷んだりと劣化の危険性が高い資料であるため、貴重資料として閲覧利用には制限を設けていることから、誰でも見られるよう、デジタル化してインターネット公開することとしました。画面下部に5枚をサムネイル表示し、クリックした絵図を大画面に表示するようにしています。解説文も、現在大画面表示になっている絵図に対応したものがそれぞれ表示されます。いずれの絵図も回転機能と拡大機能が使用できます。

絵図の中で最も広い範囲を描いた「阿仁鉱山一の又全図」には、方位と地理的な目印が示され、御台所（鉱山事務所）や蔵、神社・堂、役人および舗主（しきぬし）・本番主や坑夫たちの住居が見えます。建物の形態が精細に描き分けられ、正確に表されています。住居については、「舗主理助」、「床大工万助」のように職種と名前の両方を記し、鉱山における各職種の者が住んでいたことを明示しています。当絵図は、藩政後期に秋田藩が山領内の建物や住居の分布状況を詳しく把握するために公的な目的で作成した絵図であり、詳細な鉱山絵図として貴重な価値を持つと考えられます。



阿仁鉱山一の又全図

「阿仁鉱山一の又山舗図」「阿仁鉱山二の又山舗図」は、それぞれの山の鉱脈（舗）を示した絵図です。川や街道、橋、建物などが描かれた中に、朱線で個々の鉱脈が描き込まれており、鉱脈が平行に何本も走り、また分岐している様子を見ることができます。

「阿仁鉱山一ノ又山境図」は図内に書かれている用語から、近代のものと推定されます。鉱山の範囲を黒線で囲い、その中に採掘場と想定される面積と澤名が書かれていることから、採掘権の確認のため作成したものと考えられます。

「阿仁銀山町絵図」は、図中に「銀山上新町」「銀山下新町」「島町」「寺」「愛宕社」「山神社」「行人」「神明社」等の記入が見え、藩政時代の阿仁鉱山の町方の様子を伺い知ることができます。

参考資料

- ・「豊泉」第34号 p.5-6 「秋田阿仁鉱山関係絵図について」（長谷川成一著）
- ・「阿仁鉱山一ノ又山全図」の解析・考察を中心とした「秋田阿仁銀山之絵図」（弘前大学附属図書館蔵）の研究」土屋絃子著、弘前大学大学院地域社会研究科年報第2号、p.1-23、2005年